

2019年度

# カリキュラム編成書

国際ビジネス科

教養コース

東北電子専門学校

# 学科概要書

作成日:2019年4月1日

作成者: 出羽 正敏

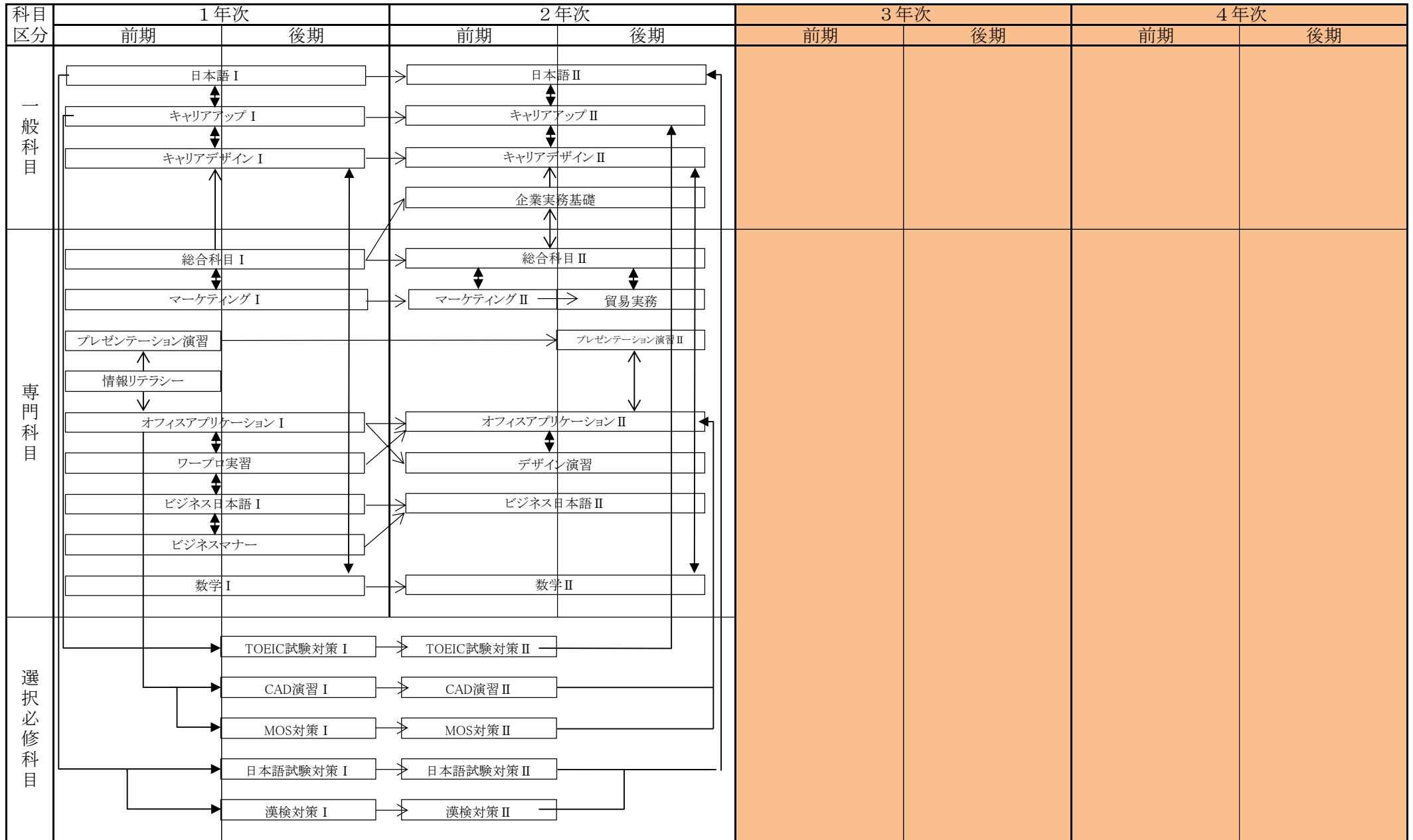
学科名	国際ビジネス科
コース名	教養コース
所属分野	ITビジネス分野

人材ニーズ	ボーダレス化が進む現代では、世界的な視野を持ち多様な文化を理解しながら国際的な様々なビジネスシーンで活躍できる人材が求められている。日本社会も年々、外国人を積極的に受け入れる企業が増え留学生が活躍できる機会は益々増加傾向にある。サービス業、製造業、国際貿易など多くの企業で日本語を使いこなし日本文化や日本の常識を理解した外国人就労者の活躍が求められている。更に専門性の高い職種ではより高度なスキルとアカデミックな知識を習得した人材が求められている
育成人材像	将来的に国際的な感覚を身に付け、高度な専門分野の学習経験と言語能力を身に付けた人材は、単に日本のみならず、アジア諸国、全世界の経済の活発化、交流、諸問題の解決に必須である。教養コースでは、第一に日本の大学または大学院に進学し、その基礎となる就学を行うための事前教育を行い卒業後、日本の大学・大学院に進学してより円滑に自身の目標を達成し、 <b>¥</b> 日本語と母語を駆使しかつ専門分野の知識を活かしながら国際社会で活躍できる人材を育成していく。
主な教育内容と目標	<p>主な教育内容は以下の4つの分野である。</p> <p>①日本語能力の習得 日本の大学・大学院に進学した後、また日本社会や企業の現場において重要なポイントなるのは日本語能力である。日本語学校で学んだベースを強化し個々の学生レベルに応じた日本語力の向上を図る</p> <p>②PCスキルの習得 日本語能力と同様に日本社会でも国際社会でも第一線で活躍するにはPCスキルの習得は欠かせない。Office2016をベースにWord,Excel,PowerPoint、更にはAutoCADを用いた作図法についても学ぶ</p> <p>③日本文化及びビジネスマナーの習得 様々なビジネスシーンで留学生が日本人とスムーズに仕事ができるよう礼儀作法や日本文化も学ぶ</p> <p>④日本留学試験対策及び英語の習得 大学進学のための日本留学試験試験対策及び英語(英検対策)も必修として学ぶ</p>
目標資格	<p>①日本語にかかわる資格・・・日本語学力テスト、日本漢字検定、PJC(実践日本語コミュニケーション検定)など</p> <p>②PCスキルにかかわる資格・・・日本語ワープロ検定、情報処理技能検定試験(表計算)、MOSなど</p> <p>③ビジネスマナーに関する資格・・・サービス接遇検定、秘書検定など</p>
目指す職種	<p>教養コースにおいて就職を希望する留学生も毎年いる。彼らの目指す主な職種は以下のとおりである</p> <p>各種サービス業 貿易業などの国際業務 通訳・翻訳業</p>
業界や外部専門家との連携体制	<p><b>【現状】</b> 神奈川県横浜市に本社がある(株)サンパワーと連携し起業及び貿易に関する実習、演習を行っている カリキュラム作成・改正に当たり年に数回会議を行い意見を交換し助言をいただいている</p> <p><b>【今後】</b> 留学生が就職した企業と新たに提携を組み、更に幅広い分野の企業との連携を構築する予定である</p>
特長	<p>①所属する全ての学生が留学生であること</p> <p>②日本語教育に関しては、姉妹校の仙台国際日本語学校と連携していること</p> <p>③ビジネスコース同様、就職希望の学生にも対応できるようカリキュラムを組んでいること</p>
その他	<p>①多くの資格試験の受験機会を与え、受験率、合格率を高める指導を行っていること</p> <p>②入学時にiPadを全留学生に配布し、日々の教育に活用していること</p> <p>③日本留学試験及びその後の2次試験対策を考慮した指導をおこなっていること</p>

# 科目関連図

学科名 国際ビジネス科教養コース

作成日：2019年4月1日



# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科			
コ ー ス 名	教養コース			
科 目 名	日本語 I	科 目 分 類	独自 / 共通	
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態
コマ数 / 週	6	総授業コマ数	228	単 位 数
担 当 教 員	佐藤 知子、松浦 貴 広、出羽 正敏、大津 堅、高橋よう子、川村 理佳、齋藤 麻恵子、岩 間 宏博	実 務 経 験		
目的 / 概要	留学生にとって全ての科目の学習の基本となる日本語の能力を総合的に高めること / 入学時の個々の学生の初期能力により3つのレベルにクラス分けを行い、日本語能力試験などの資格試験合格を目標に指導していく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語の「読む・書く・聞く・話す」の四技能をバランスよく伸ばすこと</li> <li>2. 進級時の日本語能力から卒業時まで1ランク上の日本語能力試験のレベルに合格すること</li> <li>3. 特に大学進学を目指す学生は、日本留学試験で7割以上の成績を収められること</li> <li>4. 漢検や日本語学力テストなどで学習者の個々のレベルに合った合格証を得ること</li> <li>5. 正しい日本語の発音、話し方を身に付けること</li> </ol>			
目標資格	以下の資格は、個々の学生の初期能力に従い目標資格受験級が設定される <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語能力試験N4～N1</li> <li>2. 日本漢字能力検定10～7級</li> <li>3. 日本語学力テストN4～N1</li> </ol>			
前提知識	入学時に最低でも日本語の初級後期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有することが望ましい			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	5	就職試験対策問題集の日本語		
	15	語彙・カタカナ		
	15	聴解及び聴読解		
	30	文法		
	30	読解		
	10	論作文		
	10	論理的な文章の書き方及び話し方		
	5	時事問題と重要表現		
	5	待遇表現(敬語)・面接での日本語表現		
38	日本漢字検定対策			
15	日本語能力試験直前対策			
8	日本語実力テスト対策			
38	話し方、発音、間の取り方、発音矯正、抑揚、場面に応じた応答(佐藤、松浦担当)			
2	半期ごとのまとめ			
2	試験・課題・小テスト及びその解説			
計	228			
使用教材	『専門学校生のための就職筆記試験対策問題集』、『日本語能力試験[1級]対策問題集』、『ドリル&ドリル日本語能力試験N2文法』、『日本語能力試験対策 日本語パワードリルN2文字・語彙』、『漢字検定問題集』、『日本語能力試験過去問題集』、『日本留学試験過去問題集』、日本語教育アプリ各種など			
履修上の注意	非漢字圏学習者への配慮を徹底する/より、就職・進学を意識した日本語の教育を行う(具体的には、待遇表現や面接、小論文の対策を日本語の授業でも行う)			
成績評価の方法	期末考査80%、平常点20%			

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	キャリアアップ I			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	小関 一絵	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	英語の基礎を習得することまた日本英語検定に合格すること／個々の学習者の英語の既習歴に応じ無理なく英語を基礎から学ぶことができるように配慮する。年度末に日本英語検定を実施し目標とする合格できるように学んでいく／日本語の一般常識のさまざまな問題形式に触れ解き方を学ぶ				
到 達 目 標	1. 英語の基礎を学ぶ 2. 日本英語検定で学校の定める受験級に合格する 3. 日本語の一般常識問題の様々な問題に触れ解き方を学ぶ				
目 標 資 格	学習者のレベルに応じ、学校が英検の受験級を決定する 英検5～3級の合格を目指す				
前 提 知 識	最低でも日本語の初級後期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有すること。また中学英語の基礎があることが望ましい				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	①初期能力試験及び解答・解説			
	3	②発音・音読により英語の語感を養う			
	3	③be動詞文、一般動詞文(現在形、過去形、進行形、未来形)、疑問文			
	3	④名詞の単数と複数形、代名詞、前置詞、冠詞			
	3	⑤動名詞、不定詞、比較			
	3	⑥文章読解1(掲示文、手紙、Eメール)			
	3	⑦文章読解2(説明文)			
	3	日本英語検定問題演習、リスニング			
	3	総復習とまとめ			
2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説				
10	日本語一般常識問題				
計	38				
使 用 教 材	『日本英語検定4級問題集』、『日本英語検定3級問題集』、一般常識問題集など				
履 修 上 の 意 注	英語が不得手な学生にも配慮し、基礎から学べるようにする				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科			
コ ー ス 名	教養コース			
科 目 名	キャリアデザイン I	科 目 分 類	○独自 / 共通	
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態
コ マ 数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数
担 当 教 員	升澤 満夫 木須 紀子 岩間 宏博	実 務 経 験		
目 的 / 概 要	日本での就職筆記試験に対応できるように広い分野の一般常識の基礎と日本事情などを学ぶ。			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として必要な一般教養の基礎を身につける。</li> <li>・就職活動の筆記試験に対応できる素養を身につける。</li> </ul>			
目 標 資 格	特になし			
前 提 知 識	入学時に最低でも日本語の初級後期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験 N3合格相当レベル以上の日本語能力を有することが望ましい。また、母国で高等学校の主要5科目他の基礎知識が十分に定着していることが望ましい。			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	2	科目オリエンテーション		
	4	数学分野(式と計算・速さ・割合の基礎)		
	4	数学分野(旅人算・通過算・流水算)		
	2	数学分野(濃度)		
	2	数学分野(損益算・仕事算・虫食い算)		
	2	数学分野(順列・確率・集合)		
	1	数学分野(推理)		
	3	数学分野(図形と角度・面積・体積・展開図)		
	2	社会分野(日本地理)		
2	社会分野(世界地理)			
2	社会分野(日本史)			
2	社会分野(世界史)			
4	社会分野(政治経済および現代社会)			
2	社会分野(思想・宗教・芸術)			
4	言語分野(国語および英語:ことわざ、会話表現、文法など)			
計	38			
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『専門学校生のための就職筆記試験対策問題集』</li> <li>・その他、教員が適宜問題演習課題を準備する。</li> </ul>			
履 修 上 の 意	本科目の学習内容は「日本語 I」や「総合科目 I」と関連する部分もあり、科目相互間における学習内容理解の相乗効果を期待する。そのため、問題演習に真剣に取り組む必要がある。			
成 績 評 価 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%			

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	情報リテラシー			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義/②実習/演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	19	単 位 数	1
担 当 教 員	升澤 満夫 小野寺 陽子 大津 堅	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	1.インターネット上の種々のサイトを扱う上での諸注意とモラルについて学ぶ 2.日本語ワープロ検定対策のための基本的な実力(速度)を身につける				
到 達 目 標	1.日本語入力の基本操作を身につける 2.日本語で実用的なタイピング速度での打鍵ができるようにする 3.インターネット上の種々のサイトを利用する上でのモラルと注意事項について学ぶ				
目 標 資 格	日本語ワープロ検定4級及び3級の速度				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		1	イントロダクション		
		1	タイピングの基礎		
		6	ワープロ検定対策(速度)		
		10	テキスト『実技で学ぶ情報モラル』の10單元またはインフォスの問題演習		
		1	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説		
計	19				
使 用 教 材	実技で学ぶ情報モラル、日本語ワープロ検定試験模擬問題集など プリント				
履 修 上 の 意 注	授業にとどまらず、普段からキーボードをタッチタイピングで使うよう意識することが必要である。				
成 績 評 価 方 法	実習課題の提出・演習問題による評価80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	オフィスアプリケーション I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	
担 当 教 員	内海喜勝	実 務 経 験	ソフトウェア開発会社で、15年間、制御系ソフトウェア開発とマネジメント業務を経験し、更に20年間、パソコンのビジネスソフトの講師を経験した経歴を活かし実践的な指導を行う。		
目的 / 概要	Office2016 Word、Excelの基礎を学ぶ				
到 達 目 標	1.オフィスアプリケーションの基本的な操作を身につけ、実際に活用する 2.日本語ワープロ検定対策を行い個々の学習者のレベルに合う級に合格する 3.2年次のMOS対策、Excel表計算処理技能認定試験対策の基礎的な実力を身につける				
目 標 資 格	日本語ワープロ検定				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	iPad設定指導			
	2	ローマ字入力及びキー操作			
	1	ひらがな入力			
	1	カタカナ入力			
	1	漢字変換			
	1	罫線			
	15	速打演習(速度課題)			
	15	模範文作成演習(文書課題)			
	15	ワープロ検定演習			
23	Office2016基礎(Word,Excel,PowerPointの基礎)				
計	76				
使 用 教 材	留学生のためのかんたんWORD入門 ワープロ検定過去各級過去問題集				
履 修 上 の 意 注	ワープロ検定は個々の学生のレベルに即じて受験級を決定し指導する 「ワープロ実習」と連携し資格対策を行う				
成 績 評 価 の 方 法	実習課題の提出・演習問題による評価80%、授業に取り組む姿勢20%				



# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	ワープロ演習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	遠藤 陽子	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	ワープロ機能による文書作成の基本を学ぶ。 日本語ワープロ検定試験対策を行う。				
到 達 目 標	1.日本語入力の基本的な操作を身につける 2.日本語で実用的なタイピング速度での打鍵ができるようにする 3.ビジネス文書の形式を理解し, 簡単な文書が作成できるようにする				
目 標 資 格	日本語ワープロ検定4級及び3級				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	日本語タイピングの基礎			
	7	4級速度課題			
	7	4級文書課題			
	4	4級模擬試験			
	7	3級速度課題			
	7	3級文書課題			
	4	3級模擬試験			
計	38				
使 用 教 材	日本語ワープロ検定試験模擬問題集プリント				
履 修 上 の 意 注	上位級の学習が可能な学生には, 適宜上位級の指導を行う				
成 績 評 価 の 方 法	実習課題の提出・演習問題による評価80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	マーケティング I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	小野 恵子	実 務 経 験	行政書士として9年、ファイナンシャルプランナーとしても9年の経歴を活かし、より実践的な日本の市場や経済、起業・貿易などにかかわる法規的な側面にも触れながら指導して行く。		
目的 / 概要	日本の経済及び世界経済の仕組みの基本を学ぶこと。特に消費者のニーズ充足のための創造的適応活動について学ぶこと / マーケティングの基本事項のうち、主に①基本理論、②市場の把握、③製品管理方法の3つについて学んでいく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティングの基本的な考え方を理解できるようになる</li> <li>2. マーケットの実態を把握する方法がわかるようになる</li> <li>3. 製品の分類・開発・管理の基本がわかるようになる</li> </ol>				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	入学時に最低でも日本語の初級後期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有すること。また日本の中学3年から高校1年レベルの地理・歴史・公民や現代社会の知識があること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	4	マーケティングの基礎と倫理			
	4	ソーシャル・マーケティング			
	4	マーケティングの環境や組織			
	4	マーケティング情報システムとリサーチ			
	4	製品計画			
	4	ブランドとパッケージング			
	4	総合科目:Lesson① 現代の社会生活			
	4	総合科目:Lesson② 現代の経済			
	2	総合科目:過去問題			
2	総復習とまとめ				
2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説				
計	38				
使 用 教 材	『ビジネス実践』、『マーケティングの基本 第2版』、『「今」がわかる! 世界経済ダイジェスト』など				
履 修 上 の 意 注	日本の資本主義経済の基本を母国でまったく学んでいない学生がいるので、マーケティングの学習を始める際に日本での中学・高等学校レベルの基礎事項の確認から始める				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	プレゼンテーション演習 I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	19	単 位 数	1
担 当 教 員	遠藤 陽子 岩間 宏博	実 務 経 験	遠藤:損害保険会社で役員付き秘書業務、総務事務、その後、IT関連企業にて教育などを担当。その中でPowerPointを用いて様々な商品提携資料や業務資料を作成してきた。岩間:教育機関で実態調査や入学者数の動向などを調査・報告する業務においてプレゼンテーションスキルを活かし業務をこなしてきた。		
目 的 / 概 要	プレゼンテーションソフトPowerPointの学習を基礎から始め、自らの企画を要領よく聞き手に伝える技術について学ぶ。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアプリケーションの基本的な操作を身につける。</li> <li>・PowerPointの基本操作ができる。</li> <li>・プレゼンテーションのもとになる発表原稿をWord、Excelで作成できる。</li> </ul>				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	Office2016の基本事項を理解しキー操作がある程度できることが望ましい。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1	科目オリエンテーション			
	1	プレゼンテーションとは何か(概要説明)			
	2	キー操作、基本操作			
	2	発表原稿草案の作成			
	1	プレゼンテーションの作成(文字入力、新しいスライド)			
	2	図形・グラフ・SmartArtの活用			
	2	アニメーション効果			
	2	表、画像、ワードアートの活用			
	1	背景画像、テーマなどの設定			
3	スライドショーと資料作成				
2	プレゼンテーション実技				
計	19				
使 用 教 材	指定テキストはないが、適宜担当教員作成の資料などを使用する。				
履 修 上 の 意 注	特に学習開始時は、PCの基本操作ができない学生が多いので、Wordの基本操作の内容を含む指導を行う。				
成 績 評 価 の 方 法	提出物の評価80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	ビジネス日本語 I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	出羽正敏	実 務 経 験			
目的 / 概要	さまざまなビジネスの場面に対応できる語彙力を強化すること 横書き、縦書きの原稿用紙に作文を正しく表記できるようになること 「日本語 I」と並行し特に「書く」の技能に力を入れ資格試験合格を目標に過去問題や類似問題をを用い指導していく				
到達目標	1. 日本語能力試験N3-1までの基本的な語彙、カタカナ語を学ぶ 2. 横書き原稿用紙、縦書き原稿用に正確に作文を書けるようになる 3. 選択問題ではなく短文作成、漢字書き取り等、より正確さを要求される資格試験に対応できるようになる 4. 上記1、3に関連し、教養コースでは特に論作文の指導も行い日留試にも対応できるようになる				
目標資格	「日本語 I」の資格に準ずる				
前提知識	入学時に最低でも日本語の初級後期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有することが望ましい				
授業計画	コマ数	授 業 内 容			
	3	語彙(漢語)			
	10	語彙(カタカナ)			
	5	履歴書の用語、ポイント			
	10	履歴書の書き方&企業分析			
	3	日本語各種iPadアプリ			
	3	問題演習			
	2	半期ごとのまとめ			
2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説				
計	38				
使用教材	『J. TEST実用日本語検定過去問題集[A-Dレベル]』、『J. TEST実用日本語検定過去問題集[A-Dレベル]』、『日本留学試験対策問題集 ハイレベル聴解・聴読解CD付』、ビジネスJ. TESTの過去問題、J. TESTの過去問題、日本留学試験過去問題、iPadの各種アプリなど				
履修上の意注	時に高度な語彙、カタカナの専門用語をあらかじめ授業となるので、日本語能力の低い学習者に配慮し事前にルビ付きの教材を用意する。漢字の読み・意味の確認を行ってから本題に入り、非漢字圏学習者の負担を可能な限り軽減できるようにする。またiPad、アプリを多用し、写真やクイズを用いながら学習者の理解度を深めるように工夫する。履歴書の書き方の指導は就職対策 I と連携しながら指導していく				
成績評価の方法	定期試験または課題80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	総合科目 I			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	岩間 宏博	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	日本および世界の地理、歴史を基礎から学ぶ。他、日本留学試験の「総合科目」に対応できる基礎固めをする。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本留学試験における「総合科目」の「地理・歴史」分野で得点を伸ばすことができる。</li> <li>・就職試験の地理・歴史分野の問題を解くことができる。</li> </ul>				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	入学時に最低でも日本語の初級後期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験 N3合格相当レベル以上の実力を有すること。また、日本国の中学レベルの社会科の素養があることが望ましい。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	科目オリエンテーション			
	3	地球儀と地図			
	3	世界の地理的環境			
	4	世界の国々			
	3	世界の資源と産業			
	2	人口と都市・村落			
	2	世界の生活・文化・宗教			
	6	日本の国土と環境			
	3	日本の産業と貿易			
4	市民革命と産業革命				
4	国民国家の形成				
2	過去問題演習				
計	38				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『日本留学試験対策問題集 ハイレベル総合科目[改訂版]』</li> <li>・『専門学校生のための就職筆記試験対策問題集』</li> <li>・日本留学試験過去問題 など</li> </ul>				
履 修 上 の 意 注	日本留学試験の「総合科目 I・II」を得意分野とするためには、授業外の学習時間についても十分に確保することが望ましい。				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	ビジネスマナー			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	阿部 環	実 務 経 験	一般企業にて総務事務職を11年経験後、本校就職センターにて13年間、就職指導を担当。		
目 的 / 概 要	ビジネスコースの学生はもちろん教養コースの学生も進学後、日本国内での就職を希望している者が多い。これを受け特に日本社会の現場で必要とされる礼儀作法を身につけることを目的とする / ビジネスコミュニケーションの授業と関連させ、特に言葉遣いや応対の仕方を実技をとおして学ぶ / また2年次の秘書検定及びサービス接遇検定の受験に備え双方の試験の基礎事項を学ぶ				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本社会で社会人として身につけなければならない常識を習得する</li> <li>2. 実践的な練習と訓練を経て自然に対応やあいさつなどができるようになる</li> <li>3. ビジネス社会で通用する文書や年賀状、暑中見舞いなどを書けるようになる</li> <li>4. 秘書検定3級の基礎事項を習得する(ビジネス検定受験の準備も兼ねる)</li> </ol>				
目 標 資 格	2年次に「サービス接遇検定」3級または「秘書検定」3級を受ける				
前 提 知 識	入学時に最低でも日本語の初級後期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有することが望ましい				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	あいさつ			
	2	会話のマナー			
	2	服装のマナー			
	2	電話のマナー			
	2	メールのマナー			
	3	手紙のマナー			
	2	年賀状や暑中見舞い、時候の挨拶状、お礼状、履歴書の添え文など			
	3	企業訪問のマナー			
	10	秘書検定基礎事項またはサービス接遇検定の基礎事項			
3	秘書検定問題演習またはサービス接遇検定問題演習				
3	実践演習				
2	総復習とまとめ				
2	試験・課題・動作指導及びその解説				
計	38				
使 用 教 材	『留学生のための就職ハンドブック』、『ビジネスマナー 基礎実習』、『秘書検定3級クイックマスター』『サービス接遇検定3・2級ハンドブック』など				
履 修 上 の 意 注	秘書検定の対策は同時にサービス接遇検定の対策にもなりうることから秘書検定の教本を用い双方の資格試験に対応できるよう指導していく。授業内容は演習を中心とした実践的な実技を伴う授業内容も行うこととする				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験または実技演習評価80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	数学I			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	大津 堅	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	日本の高等学校の1・2年で学ぶ「数学」の基本を学び、日本留学試験の「数学コース1」で平均点以上の得点をおさめられるようにする。また、中学レベルの数学の復習をしながら、就職試験の一般教養の数学的分野の問題に対応できるようになること。				
到 達 目 標	1. 日本留学試験の「数学 I」で平均点以上の点数を得られるようになる 2. 就職試験の数学分野の問題に強くなる				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	入学時に最低でも日本語の初級後期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験 N3合格相当レベル以上の日本語能力を有すること。また中学レベルの数学の素養があることが望ましい				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	初期能力試験と解答・解説			
	4	平面図形			
	4	場合の数と確率			
	4	三角比			
	4	方程式と不等式			
	4	二次関数			
	4	集合と論理			
	4	日本留学試験及びチャレンジ模試過去問題			
	4	専門学校生のための就職筆記試験対策問題集の数学分野			
計	38				
使 用 教 材	『日本留学試験 速攻トレーニング 数学コース1』、『チャレンジ 数学(コース I) [改訂版]』、『高校入試 数学 基礎ベスト問題集』、留学試験過去問題、チャレンジ模試過去問題など				
履 修 上 の 意 注	日本留学試験の「数学」を得意分野とするためには、授業外の学習時間についても十分に確保することが望ましい。				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	TOEIC試験対策 I			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	谷口加代	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	留学生の就活をより有利に進めるために、特に英語の力のある学生にこの科目を履修させ、700点以上の得点を取らせるように指導していく。700点から800点台の点数を取れるようになると、通訳業務として求人を出している企業へのアピールができるようになり且つ内定後の入管でのビザ申請時にも役立つ資格となる。				
到達目標	1. TOEICの試験で700点以上の点数を取得できるようになる				
目標資格	TOEIC				
前 提 知 識	選択必修科目選択時に、少なくともTOEIC500点以上の点数を取れること。日本語能力は最低でもN3レベル以上であること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	初期能力試験と解答・解説			
	4	リスニング			
	4	文法			
	4	読解			
	4	リスニングのポイントと試験の傾向と対策			
	4	文法のポイントと試験の傾向と対策			
	4	読解のポイントと試験の傾向と対策			
	4	実践問題演習			
	4	実践問題演習解説			
	2	総復習とまとめ			
	2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説			
計	38				
使 用 教 材	新形式問題対応 改訂版 CD2枚付 世界一わかりやすい TOEICテストの授業(Part 1-4 リスニング)、新形式問題対応 改訂版 世界一わかりやすいTOEICテストの授業(Part5&6 文法)、新形式問題対応 改訂版 世界一わかりやすい TOEICテストの授業(Part 7 読解)、TOEICテスト スーパー英単語、TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編など				
履 修 上 の 意 注	TOEICでの高得点取得を目指すので、対象者が極端に少ない(5名以下)年は、この科目は実施しない場合もある				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				



# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	CAD演習 I			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	伊藤 英司、内海 喜勝	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	留学生の就活をより有利に進めるために、特に建設業やデザイン関連の企業就職を目標としている留学生にこの科目を履修させ、AutoCADをマスターするための基本事項をしっかりと指導していく。留学生に対するCADの実務能力は年々高まっており、就活時に総合職や技術職として求人を出している企業へのアピールができるようになるばかりでなく内定後の入管でのビザ申請時にも役立つスキルとなる。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AutoCADの基本操作ができるようになる</li> <li>2. CADを使用してできること、CADをマスターすることによって得られるメリットを知る</li> </ol>				
目 標 資 格	なし				
前 提 知 識	選択必修科目選択時に、少なくとも日本語能力は最低でもN3レベル以上であり且つOfficeのきい本操作ができるレベルにあること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1	イントロダクション			
	1	CADでできること。CADができるとどんな企業に就職できるのか？			
	2	AutoCAD初期設定			
	4	AutoCAD基礎			
	2	AutoCADデータ保管、管理			
	2	作図前の設定			
	8	作図操作			
	2	文字設定			
	2	寸法設定			
4	AutoCAD実践演習				
4	AutoCADの種々のツール及びその活用法				
3	総復習とまとめ				
3	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説				
計	38				
使 用 教 材	AutoCAD Mechanical 体験版 テキストブック付き、はじめて学ぶAutoCAD LT 2016 作図・操作ガイドなど				
履 修 上 の 意 注	学習者の習熟度が高い場合は、実践演習の内容を増やし、より実践的な作図作業を指導する。また2年次の「CAD演習Ⅱ」の学習項目である3次元CADの基礎事項を指導する				
成 績 評 価 の 方 法	期末試験の代わりとなる提出評価課題あるいは各授業での課題80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	MOS対策 I			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	①講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	伊藤 英司、内海 喜勝	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	留学生の就活をより有利に進めるために、特にIT系企業への就職を希望しているPCスキルのある留学生にこの科目を履修させ、MOS Word資格を取得するためのスキルを基本事項から指導していく。グローバル化に伴い、留学生に対するITスキルを活かした実務能力への期待度は年々各企業の現場で高まっている。MOS資格は、就活時にアピールができるようになるばかりでなく内定後の入管でのビザ申請時にも役立つスキルとなる。				
到達目標	1. MOS Wordの資格試験に合格できるようになる				
目標資格	MOS Word				
前 提 知 識	選択必修科目選択時に、少なくとも日本語能力は最低でもN3レベル以上であり且つOfficeの基本操作ができるレベルにあること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		1	イントロダクション		
		1	MOS Word資格を取ることで、何を企業にアピールできるのか&業界分析		
		2	Word 基本操作		
		3	Wordの種々のツール、機能の確認		
		20	MOS Word対策問題集を用いた実践演習&解説		
		6	模擬試験&解説		
		2	総復習とまとめ		
		2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説		
		1	MOS Excelのイントロダクション&MOS対策IIの概要説明		
	計	38			
使 用 教 材	Microsoft Word 2018 対策テキスト& 問題集など				
履 修 上 の 意 注	MOS Word対策が早期に完了した場合は、MOS Excelの指導を開始する				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	日本語試験対策I			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	川村 理佳	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	留学生の就活とビザ申請をより円滑に進めるために、日本語能力試験(JLPT)や日本語学力テストなどの試験に合格できるよう、履修者の実力に合わせて、1つ上の級に合格できるよう対策問題集等を用い指導していく。				
到 達 目 標	1. 個々の履修者の現在の日本語能力の1つ上のレベルの日本語の資格試験に合格できるようになる。				
目 標 資 格	日本語能力試験(JLPT) 日本語学力テスト(またはNAT-TEST)				
前 提 知 識	選択必修科目選択時に、日本語入門の内容を理解し、初級の内容を一度は履修したことがあること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1	イントロダクション			
	1	種々の日本語能力試験について			
	12	JLPT対策			
	12	日本語学力テスト対策			
	6	NAT-TEST対策			
	2	模擬試験&解説			
	2	総復習とまとめ			
2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説				
計	38				
使 用 教 材	『テーマ別 中級までに学ぶ日本語 —— 初中級ブリッジ教材』、日本語能力試験 N2/3/4完全攻略・テキスト&実践問題集、実践日本語コミュニケーション検定ガイドブックなど				
履 修 上 の 意 注	授業以外にも、普段の生活で日本語を積極的に使用していくことが求められる				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%(ただし定期試験の点数の一部を提出課題で置き換える場合がある)				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	漢検対策 I			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1年生	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	出羽 正敏、大津 堅、 高橋よう子、川村 理 佳、齋藤 麻恵子、岩間 宏博	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	留学生の就活をより円滑に進めるために、個々の留学生の日本語能力の伸長は欠かせない必須の能力である。中でもネパール、ベトナム、スリランカ、バングラデシュ、ブータンなどの非漢字圏の学習者にとって「漢字」の能力、とりわけ「正確に書く」「読む」ことができることは、企業へのアピールにつながり、ビザ申請時にも大変有益な資格となり得る。漢字の能力を客観的に証明するために「日本漢字検定」合格を目標とし、履修者の実力に合わせて、1つ上の級に合格できるよう対策問題集等を用い指導していく。				
到達目標	1. 個々の履修者の現在の漢検取得合格レベルの1つ上のレベルの試験に合格できるようになる。				
目標資格	日本漢字検定				
前提知識	選択必修科目選択時に、少なくとも日本語能力は最低でもN4レベル以上またはそれ相応の能力があること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1	イントロダクション			
	1	漢検の問題形式			
	12	漢検分野別問題及びその解説			
	12	漢検過去問題及びその解説			
	6	部首			
	2	四字熟語			
2	総復習とまとめ				
2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説				
計	38				
使 用 教 材	漢検分野別問題集(各級)、漢検過去問題集(各級)など				
履 修 上 の 意 注	日本語 I で指導している「漢検対策」で使用する教材と重複しないように、教材選定には留意する。また漢検の特徴ある問題について高得点を得られるよう分野別問題集を多用し、個々の問題に対し傾向と対策を理解させながら指導していく				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科			
コ ー ス 名	教養コース			
科 目 名	日本語Ⅱ		科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態
コマ数 / 週	6	総授業コマ数	228	単 位 数
担 当 教 員	出羽 正敏、大津 聖、 高橋よう子、川村理佳、 齋藤麻恵子、岩間宏博	実 務 経 験		
目的 / 概要	1年次の日本語学習に積み重ね、留学生にとって全ての科目の学習の基本となる日本語の能力を総合的に高めること / 進級時の個々の学生の初期能力によりレベル別にクラス分けを行い、日本語能力試験などの資格試験合格を目標に指導していく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語の「読む・書く・聞く・話す」の四技能をバランスよく伸ばすこと</li> <li>2. 進級時の日本語能力から卒業時まで1ランク上の日本語能力試験のレベルに合格すること</li> <li>3. 特に大学進学を目指す学生は、日本留学試験で6割以上の成績を収められること</li> <li>4. ほか、漢検や日本語学力テストで学習者の個々のレベルに合った合格証を得ること</li> </ol>			
目標資格	以下の資格は、個々の学生の初期能力に従い目標資格受験級が設定される <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語能力試験N3～N1 (非漢字圏学習者の場合は、N4～N2)</li> <li>2. 日本漢字能力検定10～6級</li> <li>3. 日本語学力テストN4～N1</li> </ol>			
前提知識	進級時に最低でも日本語のN3合格以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有することが望ましい			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	20	就職試験対策問題集の日本語		
	25	語彙・カタカナ		
	20	聴解及び聴読解		
	25	文法		
	25	読解		
	20	論作文		
	15	論理的な文章の書き方及び話し方		
	15	時事問題と重要表現		
	15	待遇表現(敬語)・面接での日本語表現		
	30	日本漢字検定対策		
	4	日本語能力試験直前対策		
	8	日本語実力テスト対策		
2	半期ごとのまとめ			
4	試験・課題・小テスト及びその解説			
計	228			
使用教材	『専門学校生のための就職筆記試験対策問題集』、『日本語能力試験[1級]対策問題集』、『ドリル&ドリル日本語能力試験N2文法』、『日本語能力試験対策 日本語パワードリルN2文字・語彙』、『漢字検定問題集』、日本語能力試験過去問題集、日本留学試験過去問題集、日本語に関する各種アプリなど			
履 修 上 の 意 注	非漢字圏学習者への配慮を徹底する/より、就職・進学を意識した日本語の教育を行う(具体的には、待遇表現や面接、小論文の対策を日本語の授業でも行う)			
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%			

# シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	企業実務基礎			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	①講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	岩間 宏博	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	日本社会で就労する際に必要な簿記会計の基礎、労務管理、労務法規について学ぶ。また、電卓検定対策も行う。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労に必要な電卓スキルを身につけ、事務処理能力を高める。</li> <li>・日本語で簿記会計の基礎を学習し、損益計算の視点から日本企業を分析できる。</li> <li>・日本の労務法規、労務管理を学び、就労時に実践できる。</li> </ul>				
目 標 資 格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電卓技能検定試験 5級</li> <li>・日商簿記検定試験 初級</li> </ul>				
前 提 知 識	最低でも日本語の中級前期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N2合格相当レベルの以上の日本語能力を有することが望ましい。また、1年次の「マーケティング I」や一般常識の知識が定着していることが望ましい。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	3	科目オリエンテーションおよび教材配布			
	4	電卓操作の基本			
	6	電卓検定対策			
	1	簿記の基礎			
	2	商品売買			
	2	現金・預金			
	3	手形と電子記録債権(債務)			
	2	貸付金・借入金			
	2	その他の取引			
2	固定資産				
2	租税公課と消費税・資本金				
2	帳簿への記入と試算表、伝票と仕訳日計表				
2	日商簿記検定初級試験対策				
2	労務法規、労務管理の基礎				
3	労務法規、労務法規の事例研究(外国人の就労における注意点を中心に)				
計	38				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『スッキリわかる日商簿記初級(第2版)』</li> <li>・担当教員作成の独自教材 など</li> </ul>				
履 修 上 の 意 注	電卓の基本操作および検定対策を最初の実施し、その後、簿記会計、労務法規、労務管理の学習を行う。簿記検定初級に合格するためには授業だけでなく、自宅学習の時間を十分に確保すること。				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	キャリアアップⅡ			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	小関 一絵	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	英語の基礎を定着させ更に中級レベルの英語を習得すること。日本英語検定に合格すること / 1年次の「キャリアアップⅠ」の基礎をもとに基本文型の復習から始め中級レベルの英語を習得できるように進めていく。また年度末に日本英語検定を実施し目標とする合格できるようにする				
到 達 目 標	1.英語の基礎事項を定着させる 2.中級レベルの英文を聞き、読み、書き、意味が理解できるようになる。 3.日本英語検定で学校の定める受験級に合格する 4.日本語の一般常識問題が解けるようになる				
目 標 資 格	英検3～2級レベルに合格すること 受験レベルは、個々の学生の能力に応じ学校が決定する				
前 提 知 識	最低でも日本語の中級前期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N2合格相当レベル以上の日本語能力を有すること。またキャリアアップⅠの基礎がほぼ定着していることが望ましい。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1	1年次の復習			
	2	英語学習と英検対策のPOINT			
	3	発音、音読により英語の語感を養う			
	4	単語・熟語・慣用表現			
	4	語順・文章作成			
	4	文法の確認			
	4	読解(短文)			
	4	読解(長文)			
	4	聴解			
1	総復習まとめ				
1	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説				
6	日本語一般常識問題				
計	38				
使 用 教 材	『日本英語検定準2級問題集』、『日本英語検定2級問題集』、一般常識問題集など				
履 修 上 の 意 注	一年次の復習にかかる時間は年度により適宜、調整を加える				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験または課題80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科		
コ ー ス 名	教養コース		
科 目 名	キャリアデザインⅡ	科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年
授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習		
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38
単 位 数	2		
担 当 教 員	木須紀子	実 務 経 験	
目 的 / 概 要	社会人として必要な一般教養を広く学び知識を習熟すること/1年次の「キャリアデザインⅠ」の基礎知識をベースにし、一般常識問題集などを用い広く主に日本語に関し実力を身につけられるように学んでいく。また企業で用いられた作文・記述の過去問題などにも触れ、より実践的な問題の解き方にも触れ指導する		
到 達 目 標	日本人が就活の際、実際に解く問題に触れて 各レベルや問題形式・解き方などについて学び理解できるようにする。・就活必須の一般常識問題(英語を含む)に対応できる基本的な力を養成する		
目 標 資 格	なし		
前 提 知 識	最低でも日本語の中級前期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有することが望ましい。また1年次の「キャリアデザインⅠ」の基礎知識が十分に定着していること		
授 業 計 画	コマ数		
	2	漢字の書き取り(2文字・2文字の熟語・訓読み・ビジネス用語)	
	2	同音異義語(書きとり・選択)	
	2	同訓異字	
	2	語句の意味・関連(1語の関係)	
	2	同意語・類義語	
	2	反対語(対義語)	
	3	四字熟語	
	2	ことわざ	
	2	慣用句・故事成語	
	2	敬語	
	2	適語補充	
	2	文章の並び替え・文章整序	
3	作文・記述問題の実例とポイント		
3	文章読解		
4	英語一般常識		
2	総復習とまとめ		
1	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説		
計	38		
使 用 教 材	専門学校生のための就職筆記試験対策問題集(一般常識・SPI3)		
履 修 上 の 意 注	この「キャリアデザインⅡ」の指導内容は、2年次の「日本語Ⅱ」、「キャリアアップⅡ」などの学習内容と重なる部分が多いので、重複しない部分を重点的に指導していく。また慣用句、四字熟語、時事問題、時事用語などは毎回の授業で少しずつ導入する		
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%		



# シラバス

作成日： 2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	オフィスアプリケーションⅡ			科目分類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	内海喜勝、遠藤陽子、伊藤奈緒美	実 務 経 験	内海:ソフトウェア開発会社で、15年間、制御系ソフトウェア開発とマネジメント業務を経験し、更に20年間、パソコンのビジネスソフトの講師を経験した。遠藤:損害保険会社で役員付き秘書業務、総務事務、その後、IT関連企業にて教育などを担当。伊藤:建設会社にて設計職に従事。その経験を活かしCADを用いた作図の指導を行う。		
目的 / 概要	Word、Excelの応用、及びAutoCADの基礎について学ぶ				
到達目標	1.オフィスアプリケーションの基本的な操作を身につけ、実際に活用する 2.日本語ワープロ検定対策を行い個々の学習者のレベルに合う級に合格する 3. AutoCADの基本操作ができる				
目標資格	日本語ワープロ検定 Excel表計算処理技能認定試験				
前提知識	1年次にOffice2016の基礎事項を習得できていること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	Word復習			
	2	Excel復習			
	2	PowerPoint復習			
	2	Office総括			
	2	Excel関数			
	2	Excel表計算			
	14	Excel表計算処理技能認定試験実践問題演習			
	10	速打演習(速度課題)			
	10	模範文作成演習(文書課題)			
10	ワープロ検定演習				
20	AutoCADの基礎				
計	76				
使用教材	Office2016 Excel表計算処理技能認定試験問題集 ワープロ検定過去各級過去問題集 これからはじめるAutoCADの本				
履 修 上 の 意 注	1年次に引き続きワープロ検定は個々の学生のレベルに即して受験級を決定し指導する Excel表計算技能認定試験は必須受験資格とする				
成 績 評 価 の 方 法	実習課題の提出・演習問題による評価80%+授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	プレゼンテーション演習Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	19	単 位 数	1
担 当 教 員	出羽 正敏	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	1. レポートの作成, 各種統計, 研究発表等に必須の技術であるオフィスアプリケーションの応用操作ができるようになる 2. PowerPointを用いて発表の原稿を作成でき且つ発表できるようになる 3. 卒展資料の作成				
到 達 目 標	1. オフィスアプリケーションの応用実践ができるようになる 2. PowerPointを用いて発表の原稿を作成でき発表ができるようになる				
目 標 資 格	なし				
前 提 知 識	1年次のプレゼンテーション実習Ⅰの内容が定着していること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		1 概要説明 1 1年次の復習 1 Smartartの活用と応用 3 アンケート&レポート作成 4 PowerPoint発表原稿作成 1 切り替え効果とアニメーション効果 1 スライドを用いた発表の基礎 2 発表の演習&グループ発表の効果 2 卒展資料作成 3 卒展発表原稿作成			
計	19				
使 用 教 材	テキストOffice2016のPowerPoint に関する部分、プレゼンは資料作りで決まる！ 意思決定を引き寄せる6つのステップ、アイデアのヒント、企画力、プレゼンテーションZENなど				
履 修 上 の 意 注	1年次に行った学習者の故郷紹介のデータをもとに卒展資料を作成する。グループ発表を意識した指導を行っていく				
成 績 評 価 の 方 法	実習課題の提出・演習問題による評価80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	ビジネス日本語Ⅱ			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	出羽 正敏	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	さまざまなビジネスの場面に対応できる語彙力を強化すること 履歴書を企業の業界や職種などに応じて正しく、柔軟に表記できるようになること 「日本語Ⅱ」と並行し特に四技能をバランスよく身につけ各種資格試験合格を目標に過去問題や類似問題を用い指導していく				
到 達 目 標	1. 日本語能力試験N3-1までの語彙、カタカナ語を学び使えるようになる2. 横書き原稿用紙、縦書き原稿用に正確に作文を書けるようになる3. 選択問題ではなく短文作成、漢字書き取り等、より正確さを要求される資格試験に対応できるようになる4. 上記1、3に関連し、教養コースでは特に論作文の指導も行い日留試にも対応できるようになる				
目 標 資 格	「日本語Ⅱ」の資格に準ずる				
前 提 知 識	学習開始時に最低でも日本語の初級後期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有することが望ましい				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	3	語彙(漢語)			
	10	語彙(カタカナ)			
	5	履歴書の自己PRの書き方・自己分析			
	10	履歴書の志望動機の書き方・企業分析・業界研究・上場企業			
	3	日本語各種iPadアプリ			
	3	問題演習			
	2	半期ごとのまとめ			
	2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説			
計	38				
使 用 教 材	『J. TEST実用日本語検定過去問題集[A-Dレベル]』、『J. TEST実用日本語検定過去問題集[EFレベル]』、『日本留学試験対策問題集 ハイレベル聴解・聴読解CD付』、ビジネスJ. TESTの過去問題、J. TESTの過去問題、『共立・桜』、iPadの各種日本語アプリなど				
履 修 上 の 意 注	時に高度な語彙、カタカナの専門用語をあつかう授業となるので、日本語能力の低い学習者に配慮し事前にルビ付きの教材を用意する。漢字の読み・意味の確認を行ってから本題に入り、非漢字圏学習者の負担を可能な限り軽減できるようにする。またiPad、アプリを多用し、写真やクイズを用いながら学習者の理解度を深めるように工夫する。就職対策Ⅱと連動しながらの指導となる。				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験または課題80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	総合科目Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	岩間 宏博	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	1年次の基礎をもとに、「日本留学試験」および大学の2次試験に対応できるよう、地理・歴史・政治・経済分野の応用を学ぶ。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本留学試験における「総合科目」の「地理・歴史」分野で得点を伸ばすことができる。</li> <li>・就職試験の地理・歴史分野の問題を解くことができる。</li> <li>・大学における2次試験問題を解くことができる。</li> </ul>				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	最低でも日本語の中級前期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N2合格相当レベル以上の実力を有すること。また、1年次の「総合科目Ⅰ」の理解が定着していること。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	科目オリエンテーション			
	2	「総合科目Ⅰ」の復習			
	4	帝国主義と植民地化			
	3	日本の近代化とアジア			
	4	第一次世界大戦とロシア革命			
	4	世界恐慌から第二次世界大戦へ			
	4	冷戦と現代の世界			
	3	現代の経済			
	3	現代の政治			
3	現代の国際社会				
2	時事問題				
4	過去問題演習				
計	38				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『日本留学試験対策問題集 ハイレベル総合科目[改訂版]』</li> <li>・『専門学校生のための就職筆記試験対策問題集』</li> <li>・日本留学試験過去問題 など</li> </ul>				
履 修 上 の 意 注	日本留学試験の「総合科目Ⅰ・Ⅱ」を得意分野とするためには、授業外の学習時間についても十分に確保することが望ましい。				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	マーケティングⅡ			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	①講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	小野 恵子 出羽 正敏	実 務 経 験	小野:行政書士またファイナンシャルプランナーとしても9年の経歴を活かし、より実践的な日本の市場や経済、起業・貿易などにかかわる法規的な側面にも触れながら指導していく。		
目的 / 概要	1年次のマーケティングの基礎事項をもとにマーケティングの実態を学ぶこと。具体的には①商品価格、②卸売・小売業、③セールスプロモーションの3つを学ぶことまた、品質管理、工程管理、運行管理など、企業内で行われる一連の作業の関連性及び製品・商品の品質保持と迅速な物流提供が行われる仕組みについても学ぶ。 更に日本留学試験の「総合科目」の「経済分野」の指導を兼ね日本経済の近代史・特徴・問題点等も学ぶ。 更に企業との連携で会社や現場での実習や見学など行い実践的な職業スキルを身に付ける準備				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内外での起業についての基本事項を学ぶ</li> <li>2. 卸売・小売業の基本を知る</li> <li>3. 種々の業務・作業の関連性を学びそれを管理する仕組み、システムについて学ぶ</li> <li>4. 特に教養コースでは日本留学試験「総合科目」の「経済分野」で7割以上の点数が得られるようになる</li> <li>5. 職業実践専門課程に係わる学習項目を事前に理論的に学習し理解する</li> </ol>				
目標資格	特になし				
前提知識	最低でも日本語の中級前期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有すること。また1年次のマーケティングの知識があること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	価格設定			
	2	プライス・リーダー(価格を先行して決定する企業)			
	2	チャンネル(卸売・小売業)の種類と原理			
	1	国内と海外の起業について			
	5	ビジネスプラン			
	2	市場調査			
	2	損益決算収支表と経営方針の修正・見直し			
	3	経営に活かすための収益表上の数値の読み取り方や統計学的分析			
	4	工程管理			
5	品質管理				
2	輸送・運搬・納品期限				
2	運行管理				
1	リサイクル(商品の見極め、買い取り、運搬、保管・管理、修繕・修理)				
1	invoice				
1	海外での起業のリスクとポイント、その準備				
1	日本国内での起業と海外での企業の違い、その留意点				
2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説				
計	38				
使用教材	『ビジネス実践』、留学試験過去問題、実習を行う企業から提供された資料及びデータなど				
履修上の注意	1年次のマーケティングⅠの基礎及び日本の高等学校レベルの基礎事項の確認から学習を開始する。				
成績評価の方法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	デザイン演習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	19	単 位 数	1
担 当 教 員	内海喜勝 伊藤奈緒美	実 務 経 験	内海:ソフトウェア開発会社で、15年間、制御系ソフトウェア開発とマネジメント業務を経験し、更に20年間、パソコンのビジネスソフトの講師を経験した。伊藤:建設会社にて設計職に従事。その経験を活かしCADを用いた作図の指導を行う。		
目的 / 概要	AutoCADの基礎を学ぶ				
到達目標	設計のツールとしてAutoCADの基本操作をマスターする				
目標資格	なし				
前提知識	1年次のOfficeの学習事項が定着していること パソコンの基本操作をマスターしていること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1 7 7 3	環境設定とコマンドの基本操作 作成命令 修正命令 機械部品の作図			
計	18				
使用教材	これから始めるAutoCADの本				
履 修 上 の 意 注	前期に「オフィスアプリケーションⅡ」または「ライセンス対策Ⅱ」で学んだCADの基礎をベースに、更に継続してCADの基本操作をマスターできるように指導していく。授業では、作図を多く行う				
成 績 評 価 の 方 法	実習課題の提出・演習問題による評価80%+授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科		
コ ー ス 名	教養コース		
科 目 名	貿易実務(企業連携科目)	科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期
授 業 形 態	講義 / <del>実習</del> / 演習		
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38
単 位 数	2		
担 当 教 員	青山昌樹、小野 恵子、 出羽 正敏	実 務 経 験	青山:海外貿易を展開する企業で長年、輸出業務全般に携わる業務を経験、現在は指導者の立場で勤務。小野:行政書士として9年、ファイナンシャルプランナーとしても9年の経歴を活かし、より実践的な日本の市場や経済、起業・貿易などにかかわる法規的な側面にも触れながら指導していく。
目 的 / 概 要	<p>1年次のマーケティング I の基礎事項をもとに、より実践的な「貿易実務」について学び物品の輸出入に必要な知識を習得する/1年次のマーケティングの復習をしながら主に①輸送方法、②港湾と空港の仕組み、③通関の流れと手続き、④保険、⑤貿易書類の5つの分野について学んでいく。更に企業との連携により(A)起業、(B)商品管理・品質保持・中古商品の商品価値の見極め、(C)invoiceの具体的作成など、実践的な職業スキルを身につける。</p> <p>株式会社サンパワーと取り交わした「職業教育協定書」(以下、協定書)に基づいて授業科目を連携して実施する。具体的には、協定書別紙に記載している以下の内容を企業と連携し実施する。</p> <p>株式会社サンパワーには、外国人が母国または日本、さらには海外で起業することを目標とし具体的に準備、起業に至るまでのプロセス上起こり得る問題点などを解決する方法、商品の品質管理・(中古)商品の商品価値の見極めの要点がわかるようになること、輸出入業務に欠かせないinvoiceの具体的な作成ができるようになることを目的に、実践的な実習と講義を依頼する。</p> <p>事前に企業担当者と授業科目内容及び授業進捗状況から実習内容を決定、実習期間中は、企業担当者を中心に現場担当者が実習に携わる。実習の結果及び学修成果評価については、現場担当者が学生の実習状況を5段階評価し、企業担当者の承認を経て学科主任に報告する。連携により「理論」と「実務」を学修することができる。評価については、企業担当者からの5段階評価及び評価報告内容、学生から提出される実習報告書及び実習レポート内容を評価し、学科主任が総合的に評価する。</p>		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と母国間で物品の輸出入をする際の基本を学び実際に貿易にかかわる諸業務をこなせるようになる。</li> <li>・母国、日本及び海外で起業できるポイントを理解し実際に起こりうる問題点を予測しある程度解決できるようになる。</li> <li>・輸出入品の品質管理、保持、中古商品の買付け時の見極めなどの要点を理解できるようになる。</li> <li>・輸出入時に必須の作成資料invoiceの実践的な作成方法を学び、基本的な輸出業務に係わる資料を作成できるようになる。</li> </ul>		
目 標 資 格	特になし		
前 提 知 識	最低でも日本語の中級前期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N3合格相当レベル以上の日本語能力を有すること。また1年次のマーケティングの知識があること		
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容	
	2	貨物の郵送方法と流れ	
	2	港湾のしくみ	
	2	空港のしくみ	
	2	通関の流れ	
	2	通関の手続き	
	2	決済の仕組みと方法	
	2	貿易にかかわる保険	
	2	保険のかけ方	
	4	起業に必要な要素	
3	貿易資料(invoice)・書類の機能と役割(企業連携実習)		
2	日本国内での起業及びその資料作成(企業連携実習)		
2	海外での起業及びその資料作成(企業連携実習)		
2	輸出商品の制限(企業連携実習)		
2	中古商品の扱い、保全・管理・品質保証(企業連携実習)		
5	グループ分け・グループ作業・発表		
2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説		
計	38		
使 用 教 材	『ビジネス実践』、『はじめての人の貿易 入門塾』、『絵で見る貿易のしくみ』、一般常識問題集、経済や貿易に関するドキュメンタリーなどの映像ビデオなど。		
履 修 上 の 注 意	1年次のマーケティング I の基礎及び日本の高等学校レベルの基礎事項の確認から学習を開始する。この科目は職業実践専門課程を行う科目である。		
成 績 評 価 の 方 法	企業連携実習の評価:30%、定期試験の評価30%、グループ発表の評価20%、平常点20%		

# シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	数学Ⅱ			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	升澤 満夫	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	日本の高等学校の1・2年で学ぶ「数学」の基本復習と実力を養成すること。日本留学試験の「数学」で平均点以上の得点を確実にとおさめられるようにすること／1年次の数学Ⅰの復習をしながら、日本留学試験で必須の「数学Ⅰ」の試験で平均点以上の点数が確実に得られるようにする。また就職試験の一般教養の数学的分野の問題にも対応できるように学ぶ				
到 達 目 標	1. 日本留学試験の「数学Ⅰ」で平均点以上の点数を確実に得られるようになる 2. 就職試験及び一般常識の数学分野の問題に強くなる				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	問題文理解のために、最低でも日本語の中級前期以上のレベルであること。具体的には、日本語能力試験N2合格相当レベル以上の日本語能力を有すること。また1年次で学んだ数学Ⅰの基礎がある程度定着していること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	初期能力試験と解答・解説			
	3	相似と内分及び円と三角形			
	3	樹形図、確からしさ、順列と組合せ			
	3	正弦・余弦・正接と三角形の面積(ヘロンの公式を含む)			
	3	因数分解の復習と各種方程式・不等式			
	3	二次関数のグラフと軸・最大値・最小値			
	3	二次不等式			
	3	必要条件と十分条件			
	3	専門学校生のための就職筆記試験対策問題集の数学分野			
計	2	総復習とまとめ			
	2	試験・課題・クイズ(小テスト)及びその解説			
	5	大学2次試験対策過去問題			
	3	卒展資料作成			
計	38				
使 用 教 材	『日本留学試験 速攻トレーニング 数学コース1』、『高校入試 数学 基礎ベスト問題集』、『チャレンジ 数学(コースⅠ)[改訂版]』、一般常識問題集、留学試験過去問題、チャレンジ模試過去問題など				
履 修 上 の 意 注	1年次で指導しなかった残りの3単元に関し集中して指導していく。11月の日本留学試験が最後の試験となることから、この3単元の指導は10月末をめどに終了するように指導する。その後は、総合科目Ⅱ同様、2次試験対策及び一般常識の解法、卒展資料作成の時間に充てる				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				



# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	TOEIC試験対策Ⅱ			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	①講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	谷口加代	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	TOEICにおいて700点以上の得点をおさめられるよう指導する。TOEIC700点以上の英語能力を有することは、外国人留学生にとっても日本国内での就活を円滑に進める上で重要であり、2年次の前期中に試験を一度受けさせるように指導していく				
到 達 目 標	TOEIC700点を取るための学習方法を体得する				
目 標 資 格	TOEIC700点以上の取得				
前 提 知 識	最低でも日本語N3以上のレベルであること。1年次の学習でTOEIC550以上の力を身につけていること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1	1年次の復習			
	6	単語・熟語			
	6	語彙			
	5	読解			
	5	文法			
	5	聴解			
	5	過去問題&演習問題			
	5	試験対策のPOINT			
計	38				
使 用 教 材	『TOEIC L&R テスト プライム模試』、『キクタンTOEIC TEST SCORE600』、その他				
履 修 上 の 意 注	学生が使いこなせるpositive vocabularyを増やす				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	CAD演習Ⅱ			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / ②実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	伊藤英司	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	建築分野に限らず、デザインや設計、図面の修正など多くの現場でCADを扱える能力が必要とされており、これら種々の要望に広く対応できるようにAuto CADを用い、3次元の図面を作成できるようにする				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年次で学習した種々の作業を正確に短時間でできるようになる</li> <li>2. 3次元の図面を描けるようになる</li> <li>3. 図面の修正作業ができるようになる</li> </ol>				
目標資格	特になし				
前 提 知 識	1年次に学習したAuto CADのスキルを用い、2次元の図面作成ができること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 何をこの授業で学ぶか、1年次の復習</li> <li>3 球の作図トレーニング</li> <li>3 長方体、円柱、三角柱などの分割の作図トレーニング</li> <li>3 文字の描画トレーニング</li> <li>3 寸法線のトレーニング</li> <li>3 削除のトレーニング</li> <li>3 複写のトレーニング</li> <li>3 移動に関するトレーニング</li> <li>3 立方体の変形に関するトレーニング</li> <li>3 歪みに関するトレーニング</li> <li>3 領域の塗りつぶしに関するトレーニング</li> <li>3 測定に関するトレーニング</li> <li>4 3次元の図面の実践演習</li> </ol>			
	計	38			
使 用 教 材	Pro/ENGINEER実践3次元CADテキスト、 AutoCAD LTトレーニングブックほか				
履 修 上 の 意 注	1年次のAuto CADの習熟度状況によって指導・演習の時間数は柔軟に変更し対応できるようにする				
成 績 評 価 の 方 法	期末試験の代わりとなる提出評価課題あるいは各授業での課題80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	MOS対策Ⅱ			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / ②実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	内海喜勝	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	MOS Excel, MOS Wordのいずれかまたは双方に合格することが目標。対策問題集を用い、Excelから学習を開始し、後半Word対策に切り替え指導を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. MOSの問題の内容、レベルを知る</li> <li>2. 対策問題集で実践的な演習を繰り返し問題のパターンになれる</li> <li>3. MOS ExcelまたはMOS Wordで合格できるようになる</li> </ol>				
目標資格	MOS Excel, MOS Word				
前 提 知 識	最低でも日本語N3以上のレベルであること。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	5	Excel 演習と解説			
	5	Excel 過去問題&演習			
	3	試験対策のPOINT			
	1	Word&タイピング総復習			
	3	Word文例1 社内文書			
	3	文例2 報告書			
	3	文例3 議事録			
	3	文例4 稟議書			
	3	文例5 社外文書			
3	文例6 御礼文書				
3	ドリル&試験対策のPOINT				
3	過去問題&演習問題				
計	38				
使 用 教 材	MOS攻略問題集 Excel 2016, Officeソフトで作る文書ドリル全55題など				
履 修 上 の 意 注	Excelの習熟度状況によってWordの対策指導は柔軟に対応できるように調整する				
成 績 評 価 の 方 法	MOSの試験結果、定期試験の結果あるいは各授業での課題やクイズの評価80%、授業に取り組む姿勢20%				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	日本語試験対策II			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	②講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	川村 理佳	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	日本語力の底上げが目的。日本語能力試験N4,N3レベルに到達できていない学生への指導。多くの留学生が、日本語学校時代に使用した『みんなの日本語 I・II』の各学習事項に触れながら、基礎固めを行い、更にN3レベル合格への指導を行う				
到 達 目 標	1. 日本語の基礎事項を定着させる 2. 初中級レベルの日本語を聞き、読み、書き、意味が理解できるようになる 3. 日本語の各種試験でN3レベルに合格できるようになる				
目 標 資 格	日本語能力試験 (JLPT) 日本語学力テスト(またはNAT-TEST)				
前 提 知 識	日本語試験対策Iを履修していること、または同等の知識があること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1 6 6 5 5 5 5 5	1年次の復習 文字 語彙 読解 文法 聴解 過去問題&演習問題 試験対策のPOINT			
計	38				
使 用 教 材	『テーマ別 中級までに学ぶ日本語 —— 初中級ブリッジ教材』、『日本語能力試験対応 きらり☆日本語 N3 語彙』、日本語能力試験 N2/3/4完全攻略・テキスト&実践問題集、実践日本語コミュニケーション検定ガイドブックなど				
履 修 上 の 意 注	授業以外にも、普段の生活で日本語を積極的に使用していくことが求められる				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%(ただし定期試験の点数の一部を提出課題で置き換える場合がある)				

# シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	国際ビジネス科				
コ ー ス 名	教養コース				
科 目 名	漢検対策Ⅱ			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	①講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	出羽 正敏、大津 堅、 高橋よう子、川村理佳	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	日本語力の特に漢字能力の底上げが目的。日本語の会話・ヒアリング能力に長けている非漢字圏の学習者でも、漢字に関しては、まったく不得手と言う留学生が少なくない。漢字は、大学進学後も就職後も必ず必要な者であり、その苦手意識を克服し、更にモチベーションを高めるために漢字検定合格を目指し学習をさせる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語の基礎漢字の読み・書きを定着させる</li> <li>2. 初中級レベルの日本語の漢字熟語を聞き、読み、書き、意味が理解できるようになる</li> <li>3. 日本漢字能力検定で1ランク上のレベルに合格できるようになる</li> </ol>				
目標資格	日本漢字能力検定の1つ上のレベル合格				
前提知識	最低でも日本語能力試験N3以上の実力があることが望ましい				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1 6 6 5 5 5 5 5	1年生の復習 漢字の読み 漢字の書き取り 部首 対義語・同意語 音読みと訓読み 各レベル過去問題 問題の解説、漢検のPOINT			
計	38				
使 用 教 材	iPad各種アプリ、日本漢字検定問題集(各級)				
履 修 上 の 意 注	漢検の最新情報を常に学生たちに提供する。受験を学生達に促し100%の受験率になるようにする				
成 績 評 価 の 方 法	定期試験80%、授業に取り組む姿勢20%				